

1 / 2 4 (日) 1 0 : 0 0 ~ 1 3 : 1 5 清和台小学校 参加者 8 3 名 発言者 のべ 1 8 名
...ご質問、ご意見 ...川西市教育委員会の説明

< 在籍 保護者 >

前回の説明会が10月にあったんですけども、この3か月間色々考えるというか、思ったことがあります、石道に住んでいるんですけども、やはり、今たくさんご説明いただいたんですけど、自分の中では、通学の距離と時間が納得いかないというか、不安な面がありました。

今まで行ったんですけども大変だったんです。今、小学校まで25分ぐらいかけて行ってるんですけど、私も小学校、中学校と登校は石道からだったんですけど、中1の時でも30分ぐらいかかって、教科書など荷物も多くなりますし、ショルダーバックが肩に食い込んで、確かかなり食い込んだ跡があったな、と思いながらいろいろ思ったんです。

今、毎日登校に付いていってるんですけども、南小学校初日から、中学校を越えて、しかもまだ幼稚園出たばかりの6・7歳の子が通うという面では、やっぱり上の学年の子に遅れないで付いていくというのがあります、学校が南小しかないというのなら、通わなければならないと思いますし、昔、多田小学校しかないとき、私の父親は多田小まで、その時はバスで通っていたという話も聞きましたし、ちょっと上の方になると、歩いていたという話も聞きました。

小学校から、その時は多田小しかなかったから通ってたんですけども、今でも、南小しなくなっただけでここまで通えと言われれば、通えないことはないんですけど、歩いて行かねばならないし、歩いて行くこともできるんでしょうけど、今、ここを毎日毎日行っている現状でも大変です。

うちの子は5年生になりましたけれども、まわりにまだ未就園のお子もおられますし、そう考えるとやっぱり、南小まで歩くという距離が、やっぱりちょっと納得がいなくて。

その時期になると柳谷から通う子がいらっしやらないというのがあったんですけども、終業時間を変えるのも検討されるって伺いましたんですけども、そうなると思うと恐らく朝少ししか会えないですし、帰ってくるのもかなり遅くなるわけであって、毎日、帰ってくるのが4時に終わったとして5時前かなと、それからおやつを食べる時間もなく宿題して、お風呂と、今でも結構大変なんですけど、今よりも慌ただしくせかせかせしてしまうっていう気持ちもあります、結構個人的な意見もあるんですけども。

それで、南小にするっていう、なぜ南小かなと思ってたんですけど、今日はお話をうかがって、築年数であったり、南小の方が新しいっていう、それで決まったというのもあるんでしょうけれども、清小も耐震工事をしてしまったし、耐震とかそういう面ではそんなに変わらないのではないかなという思いもあります。それに加えて中学校と近いというのも伺いして、近い方が有利なことがあるっていうのも今聞いたんですけども、それでしたらたとえばですね、もう少し長い期間考えてですね、能勢町の方の、地名は忘れてしまったんですけど、小中一貫校の新しい校舎が建っているっていうのも知りました。ですので、もう少し遠い遠い何十年も先の子どもたちのことを考えて、たとえば、オアシスの横の広場に小中一貫校の学校を建てるなど、私たちの税金が、どのように使われているかわからないですけど、もし、目に見えないところで、無駄に使われているかそういうのもっとちゃんと検討してもらって、もっと長い目でそこに小中一貫校を建てるっていうのはどうかとか色々なことをこの3か月で考えて、思ったんです。

いくつか項目があったかと思います。一つ言われているのは石道地区の通学距離、時間についてでございます。資料の7ページの下の方のシート、校区というところになるんですけども、基本的な考え方としては、いろんな差はあるものの、ひとつの小学校区として、基準のなかであると考えております。このまま清和台を統合したときの校区が、著しく他の校区に比べて広がっているというふうには認識しておりません。また通学距離につきましても、様々な校区がありまして色々な高低差があるなかで、現在子どもたちが通っておられる、その点で見ても、清和台地区だけ特にご負担をかけているということはありません。ないと認識しております。

ただですね、そうは言っても先ほど仰られた通り、統合によるものということについては、やはり一定の配慮が必要であろうというふうに考えております。従いましてその下に書いてありますように、在学中の一定距離以上の子どもさん、しかも低学年には配慮すべきところがありますので、ここについてやはり通学支援をしていくということで、教育委員会の中では案としていますし、市長部局ともその内容で協議を進めているところでございます。年度を区切るものではあるものの、一定、バスでの通学を支援するという形を今検討しているところでございます。

また、違った意味で校区外就学というのは、統合されるのを知らずに校区外通学されていた子どもさんたちには一定配慮が必要かなという意味で記載させていただいております。

清和台南小学校へそういうような形で通うとなりますと、通学路を合理的なものにしないと、既存の通学路では遠回りするような形も考えられます。南小学校の校門とか、そういうところを配慮することによって、できるだけ最短距離で、安全で最短な距離を得られるのではないかなと考えております。中学校との距離のこととか、能勢町の話が言われているところで、やはり長いスパンで考えていかなければならないということは私どもも痛感しております。

子どもたちも含めて、市全体の人口が非常に右肩下がりになるということで、やっぱり5年、10年だけでなく、20年30年考えていく必要があるというのは痛感しています。ただそれを待って新しく校舎を作るというのは今の現状では難しい選択肢であるかなと、既存の二つの小学校を活用しながら、それでも最大限住民要望に沿ったの施設とかそういう点を考えて、今後の在り方を検討するときに、選択肢が多い施設を使うべきかなと考えております。

< 保護者 >

住民の意見を聞くということで、第2回目の開催いただきありがとうございます。ただ、前回の説明会で皆さんが質問した内容と、今回改めて説明されている内容と、ずれている部分が結構あるという気がしています。私は前回意見させていただいたのは、高速インターができて環境が変わる、で、先ほどから清和台地域を発展させるのはなかなか難しいとかいうお話がありましたけれども、本当にそうだろうか、このチャンスを生かしていけるんじゃないのかなと、その状況で今、この小学校をつぶしてしまっているのかな、ていうのが正直なところで、それに対する回答が、さっき教育長のお話になんかあったかもしれないんですけど、本当にこう、無いのかな、それは教育委員会の方が答えられないところかもしれないですけども、市の幹部の方で、そのあたり協議してい

ただきたいなど。

最初にすこし触れました、新名神が29年にできます、猪名川町とですね、実は清和台東1丁目と西1丁目そのあたりでも増えるかもしれませんし、石道のところですね、そういったところで今、仰ったところは、若年世代が帰ってこられるか、通勤の関係の中で住宅とかが増え、お子さんが増えるかなという予想はあるんです。しかし、今日の全体的な減少傾向からみた時に、毎年60人、70人、32年から33年まで増え続けるのは難しい。これはこういった状況の中で、人口減少を止める為に実は市をあげてですね、親元近居制度という助成制度をしています。これは昨年度119件、27年度は二百数十件です。で、清和台地区を調べたら、清和台だけだったら、平成26年度は12件あったんです。今年はまだ把握してないですけど、グリーンハイツでは13件でした。自分が親として子どもたちに帰ってきて欲しいと思われ、帰ってこられたお子さんが親元近居制度でもって入られたのが清和台地区で12件あったんです。校区内で子どもが一番多いのは清和台東4丁目なんです。250人くらいおられます。それからオアシス、清和台小学校近隣は、県住があって周りにハイムがあるので、なかなか増えない状況がある。大きなマンションが建って、200軒くらいのマンションが建っても、だいたい比率からすると、0.2くらいの係数、計算すると子どもの数は、40人くらいなんです。これは、ひとつの学年に6人が7人くらいに相当します。今までの状況からすると、こういう北部に比べたら、南部の火打の方にも新しいマンションが増えている。清和台地区の高齢化は31.5%くらいで、そういう状況と少子化の0.28、これからの中長期の将来を予想したときに、今後住宅地である清和台地区をどういうふうに活性化するのが良いか、よりよい生活とか、生き方をしていくにはどうしたらよいかをやはり教育委員会、市長はじめ市長部局も一緒に考え、地元の方々と一緒に協力して知恵を出し合って、そういう街づくり、それから川西の、清和台地区の教育を見据えていかなければいけないなと今思っているところです。

< 在籍 保護者 >

今回初めて参加させていただきまして、なぜ南小に統合なのかなと。3ページ目の統合後の使用施設というところで、3点、建築・敷地面積・中学校への距離、のこの3点が重視されていたということでお伺いしたいんですけど、建築はたしかに古いんですが、先ほども質問が出ましたように、耐震工事を清和台小学校はして、敷地面積も2万平米とだいたい近いですよ、2%くらいしか差がないんですけど、小学校のキャパとして1000人以上くらいある施設で、小学生合計して5~600人程度、どちらの学校に統合してもまあスカスカという状態になると思うんです。このたった2%の差を重要視されるのがわからないというのと、中学校との距離という点で、小中一貫というのがすばらしいので、進めていきたいと思うんですけど、ただ聞いていると、学校の距離じゃなくて仕組みの問題ではないかと思うんですね。別に統合しなくてもいいんじゃないかと僕はそういう風を感じたんです。0.8kmの違いで小中一貫教育ってそんなに変わるのかなって思ったんです。さらに次のページ、学生の数、確かに清小の方が少ないんですけど、みていくと、グラフの見方はそれぞれあるんでしょうけど、28年度84人、それが33年度には差10人なんですね、

こればっとみたら南小の方が少子化率が早く進んでいるじゃないかというふうに思うんですけど、それをわざわざ南小の方に統合するのかなと、この辺ちょっとよくわからなかったんで、お答えしていただきたいなと。

< 在籍 保護者 >

今の方のおっしゃったとおりだと思うんですけども、加えまして、幼稚園が、清和台小学校すぐ近くに清和台幼稚園がございます。清和台幼稚園の方も、今、清和台小学校との交流をしています。

プールなんかも実際、清和台小学校のプールを使って学習していると聞いています。

この方と僕も同じ意見なんですけれども、清和台がなくなれば、清和台幼稚園から、南小までの距離を移動して、わざわざプールまで学習に行くのかなと思っております。そういう風に考えますとですね、そんなに敷地面積、校舎の建築年数等そんなに変わらない、であればですね、それこそ清和台南小学校を統合校とするメリットは、僕も感じないように思います。

< 未就学 保護者 >

さっきのお母さんと同じ点なんですけど、どうしてもこの事業をずっと眺めるとなんで南小に決まったのかというのがあまりにも薄すぎてなぜなのかなというふうにしか思わないんですけど、先ほども言っていた通り、建築年、敷地面積、中学校の距離、この3点だと思うんですけど、ひとつ、中学校の距離、清小から清中までの距離、1.4km、どこからたどってもらったのかよくわからないんですけど、たぶん0.8くらいしかないはずなんですけど、昨日僕もはかってきたんですけど、そんな1.4もないはずで、それを覆れば、中学校までの距離1キロ未満のところにも両者なるのではないかなと。で、川西市さんが進めていただいて、しょっていただいているような中学校の連携っていうのは、平成24年からやっておられて、県の事例とかでも取り上げられているというのは知っています。

その中で川西中学校区で一生懸命やっておられてたと思うんですけど、その小学校までの距離というのは1km以上、北小と川中、結構距離はあるはずで、その中でできていると自負していただいているようなんで、この距離を持ってできなくなるというのは僕的にはやはりおかしいんじゃないかなというふうに思うので、これを根拠にされているというのだったら、もう一度見直していただきたいというのが一点、もう一つはそうなってくると残す2つの建築年と敷地面積になってくるんですが、敷地面積については一番初めの方がおっしゃっていただいていた通り、1,000人規模以内であれば問題ないというのは両校とも言えると思いますので、それはクリアできるのかなと、で、そのあと建築年度になってくるんですけど、皆さんおっしゃっていただいているとおり、耐震改修を今回やっていただいたというので、耐震改修については、川西市内あげて各校やっていってもらっているというふうに思います。9月の補正予算で大規模渡り廊下部分まで追加してやっているはずなんですけれども、本来ここの校舎をもう使わないというふうに思うんだったら、大規模改修をする必要はまったくなくて、本当に必要があるんだったら、はやく見直して、その分できたお金を通学支援だとか、というのにまわしていくべき、のが本来の施策、行政側の考えることであって、あまりにもこの計画を考えたってというのが、意味がないのかなと。仮に大規模改修をしたのであれば、大規模改修年度からさらに30年以上ないしはそういう計画になっていると思いますん

で、そこまで延命させると決めتانですから、そっちの校舎を優先的に使う、という方がかなり理論的に説明ができるんじゃないのかな、そんなに大きな差がないんだったら、どう考えても清小の方が有利じゃないのかなと単純に思うんですけど、なんで固執、ここまで固執して南小、で、その部分の説明をこういうような形でやるのかなと思うんですけど、その点やはりみなさん、一番気にかかっているところだと思いますので、説明していただきたいなと、思っています。

多数ありましたので担当を代えながら順番に説明させていただきます。まず、両方ともそれほどポテンシャルが変わらないのにどうして南小なのという基本的なご意見、これはごもっともなんですが、実際我々が何度も学校双方を見たときにですね、自分の子がこの先そこそ何十年なり通っていくと、子どもが30年間ずっと通うという意味ではなくって、校舎として残して、どちら2校が残してあげたいかなというふうなことで、数字上の建築年次だけではなくて、それぞれが建てられた時の、規模ですね、それぞれ建築時の基準というのがあります、廊下の幅であったり教室の大きさであったり、細かいところがいろいろあるんです、その話はちょっと置いておいて、で、双方見させていただいたときに、どちらの体育館の方がいいんだろうとか、どちらの廊下の方がいいんだろうとかいうことを、天井を見ながら、床下を見ながら考えたわけです。ですんで、表面上ね、出されたものをパッと見てポンと決めたといい訳ではないんだということです。実際見に行くと、確かに耐久年数伸びましたけど、廊下の方も工事させていただきました。ただそれは今ある危険を放っておくわけにはいかないという使命と、それから仮に違う施設として流用させたときに、施設を流用させた場合でもちゃんとした施設であるというふうな構造が必要だということで、無駄な工事ではなかったと考えています。色々なところでね、こんなふうに統合が決まっているのなら、なんでこんなことしたんだというお叱りを受けているんですけど、今行っているお子さんの安全と、それから将来のこと、5年、10年ではありません、文科省の補助金の関係もありますけども、施設として次に有効であれば、転用は許可され、補助金を返す必要もありません。ですんで、そういった意味で有効活用できるということを踏まえた上でやっています。で、次、面積の話ですが、面積もおっしゃるとおりです。ほぼ一緒です。もともと公立の学校としては施設基準がありますので、面積も変わらない。では多い少ないで考えた時とか、利用する場合の利便性ですね、学校として使う方が望ましいか、それとも学校以外の使い途が期待される場所にあるのかとか、そのあたりのことも多分、考えていると思います。これは跡地の有効利用の方で考えていくことなんで、私どもはとくに口出しすることではないんですが、私たちは教育施設として、学校としてどっちを残すべきかという観点で選ばせていただいています。その次の中学校距離の関係です、どちらも正門からの距離で、実際に歩いたかということですが、私どもは歩いてはおりますが、距離を測ったのは一般にインターネットに出ている地図ソフトで測っております。ですんで、歩いて距離を測ったわけではありません。こういった意味で、他にも多々あったんですが、特に重視した点はこういうところでした。躯体という面では、補強によって、両者とも清和台南小学校は当然色々な工事をやっておりますので、延命しております。施設関係については以上です。担当が変わります。

小中連携というのはしばらく前から言われておりまして、内容につきましては年々深まってきたのかなというふうに思います。ご指摘のとおり、川西中学校区なんかでも、部活交流、そういうのを先進的にやられて、それが基盤となって各中学校区に広がっていったかなと思っています。ただ、その時に言っていた小中連携というよりも、さらに進化というか、いろんなところの連携が進んでいっているかな、それは例えばさきほどありました、資料で言いますと7ページ上にあるんですけども、やはり目指す子ども像であるとか、それから小学校に入学し、高学年。子どもたちの発達が早熟化する中で、小学校の高学年がひとつのターニングポイントであるかなと思っています。

そこにやはり中学校的な視点って言ったら誤解があるかもしれないんですけど、教科担任制であるとか、そういうものを入れていく、生徒指導に関してもそういった支援を入れていく必要があるというのが一つ、小中連携の大きな柱になっています。またそういった中で、子どもたち自身の自治活動であるとか、交流であるとかを、前は年に1回とか学期に1回であったものをさらにできるだけ子どもたちや教師たちの交流のプログラムが今まで以上に多くなっていくことが予想されたときに、やはり少しでも距離が近い方が大事じゃないかなと思っています。特に子どもたちの交流が進んでいくということは非常に重要なことかなと考えています。そうすることによって、子どもたち自身の横のひろがり、つまり同学年に友達や仲間が少なくなっていくこれからの世代においては、縦の関係によって子どもたちはコミュニケーション能力を磨いていくという形になるかなというふうに思っております。そういった中で小中連携に本市は取り組んできたんですけども、さらにそれを進めていく必要がある。そういったものによって子どもたちの成長が、より健やかにいけるのではないかなというふうに考えております。そういうこともありまして、中学校との距離というのも一つのポイントとしてあげさせていただいています。それからそういった中で、幼稚園との交流も非常に大事ではないかというご指摘をいただいております。仰るとおり、幼少中連携をやっています、今、こども未来部が教育の方に入ってきてまして、就学前小中一貫、連携教育ということをやっています。ただですね、就学前教育というのは、ご存じな方もおられるかもしれませんが、ひとつ大きな流れになっています。というのは、幼稚園、保育所ではなくて、子ども園というような形で、親御さんが就労していようがしていまいが、一定やはり同じような教育や保育を受けられるような、そういう流れになっていっているのが一つでございます。その流れの中で、もう一つあるのが、そうすると、公立であろうと私立であろうと、同じように就学前教育を一体化していく必要があるというのが大きな流れになっています。従いまして、公立幼稚園においては公立幼稚園との連携が盛んになっていきますけれども、近い将来、私立公立関係なく、また幼稚園保育所子ども園関係なく、交流していくというのが一つ大事なことかなと思っています。そういう視点から考えなければならない、その点で新たな手立てを考えなければならない時期かなと考えています。ただそうは言いつても、そしたら今までの公立の、清和台幼稚園との交流をどうするんだというご意見もございます。プール使用をして交流しているというのは私どもも認識しております。基本的には、今の教育委員会の中の案としては、ここに小学校の施設、プールが残りますので、それを活

用する形で、幼稚園にも使用していただく方法を検討しているところでございます。ただですね、子ども同士の交流であるとか、給食体験でありますとか、そういったところは引き続き行っていきたいところですが、それについては、清南小に移動する方法であるとか、再度こども未来部と一緒に検討していくことで交流していきたいという風に考えております。

プールのことについて、部長の説明につけ足して、もう少し具体的に申し上げます。確かにプールにつきましては、現行の清和台小学校のプールを使うやり方にすべきなのか、それとも幼稚園内にプールを設置すべきなのかということは、持ち帰って検討を今、しているところです。で、具体的に幼稚園の中にプールをつくるということで、仮設のものをつくるとなると、またそれを維持管理する必要がありますし、園庭の中に固定式なものをということになると、当然子どもの遊ぶ園庭が狭くなっていく。そのことと合わせて逆に、現行どおり清和台小学校のプールを使う、小プールになるかと思うんですけど、だいたい小学校のプールというのは大プールと小プールがつながっているんですけども、そのあたりは調整して小プールを独立させる、そしたらどちらも使える、また衛生的にも使えるというような可能性を今調べているところです。それで今後、さきほど仰ったように、清南に何らかの交流訪問があって、清南小のプールを使う方がいいのか、清小のプールを若干の手を入れて使った方がいいのかといったことについては、今後お預けいただきまして、まずは子どもが使えるような、安全な衛生的なプールを第一に考えていきたいと、今検討をすすめています。

< 在籍 保護者 >

まずどちらかの学校を廃止するという議論なんですけれども、これ本当に統合しないといけないのかという最初の議論に戻るべきだと思うんです。単学級になったら非常に具合が悪いから統合ということなんですけれども、これのデメリットを拝見すると、クラス替えがでけへんとか、人間関係が複雑になってしまうと、固まってしまう、ということなんですけれども、この問題は、一学年に何学級あっても、こういう問題はおこるんじゃないかなと、クラス替えによって問題を解決しようというのは、あくまでも対処療法的な対策であって、基本的な、抜本の問題解決にはなっていないんですね。クラス替えによって嫌なもんがおるから替えると、問題があるからクラス替えでお茶をにごすと、根本的な解決にはなれへんと、あと、読んでいくと学校運営が難しいとか、あくまでも、学校だとか教育委員会がリーダーシップかけて統合せなあかんというふうにししか思われへんのです。それと一つの学校を廃止してしまえば、二度と復活は無理だと思うんですね。清和台小学校が廃校となると、これが何年か後に復活するとはならないのですからその辺の議論をもう少し進めて、本当に単学級にして問題が発生すると、色々こう、人数少なくて運動会が出来ないとか、行事ができないとか、そういうことになってから、統合すればいいんじゃないかなと。とりあえず単学級で何年かやってみて、両校のその時の在校生なり、PTAなり先生方がこれちょっと具合悪いと、なったときにはじめて統合という話が起こるべきであって、単学級になるから統合やねんと、一旦、先ほども言いましたように、廃校してしまえば二度と復活できひんわけですから、もう少し慎重になって、問題が起こってきたときに初めてこういう統合の話が出るべきやと思います。それと、どうしても統合だということになれば、前も申しましたように、子どもたちの安全面に関してですね、ず

っと検討中、検討中であれば、さきほど石道の方がおられたように、不安が大きいと思います。きっちりスクールバスやったらスクールバスを出す、通学補助をすると、具体策がないかぎり、永久に解決しません。

< 未就学 保護者 >

未就学児 2 名の親ですが、上の子どもは、清南小のそばの新清和台幼稚園に徒歩で通っています。

阪急オアシスのところから、幼稚園の先生が迎えに来てそこからいっしょに何人かのお友だちと歩いていっているのですが、今年中ですが、歩いて行けないことはないなと思っているので、安全面だけ考えていただければ、こっちの学校がなくなってしまうときは、清南小に歩いて行けなくはないと思っています。私はここの小学校のそばに住んでいるんですが、実際家の周りに空き家があったりとか、子どもが本当に少ないなというのがあるんですけど、先ほど説明頂いたように、親元近距離居住制度があって、それは私も最近知ったんですけど、川西に人を集めようというそういう方法がたくさんあるっていうことを、知らない人の方が実際に多いんですね。そういうことをいっぱい広めて、先に子どもを集めることを考えていただいた方がいいんじゃないかなというのが私の考えで、ここの小学校をなくすことで、実家のそばに、子どもを連れて住もうと思う人が減るんじゃないかと思うんですね。それだったら他地区の新しいマンションに住んだ方が、子どもが大きくなったときに住みやすいし、余計に、少子化が進む原因になるんじゃないかなと、思っているんですが、ここはどうお考えですか。

< 在学 保護者 >

清和台地区はお年寄りが多いって今年引っ越してきて知ったんですけども、清和台小学校のまわりは、見回りボランティアとか P T A とかがしてくださってるって聞いているんですけども、清和台南小地区に通わせた場合、見回りボランティアしてくれる方たちが、清和台地区まで行ってくれるのかどうか不安だし、もし清和台南小地区に通わせていくとなったら、見守りとして、一つの提案なんですけど、勝手な提案で申し訳ないですけど、ちょうど清和台南小学校と清和台小学校の間に、消防署と交番があってくれてるので、その方たちの協力も得られたらなという考えもあるし、単学級のことに関してなんですけど、主人の母から、神戸の学校でも単学級の学校があると聞いたんですけど、そこに行って話を聞いた方が、単学級であって、その学校にメリットデメリットを聞いてもいいのではないかと思うんですけども、それはどう思いますか。それと、交流に関してなんですけど、子どもたちだけじゃなくて、普段の清和台南小学校であったり清和台小学校であったりとか、普段の生活ができる場を作ってはいいいのではないかと思うんですけど、どうでしょうか。すみません勝手なことを言って。

< 在学 保護者 >

統合についてなんですけれども、これって現場の先生の声でしょうか。教育委員会が言葉を並べたような感じがとれるんですけど、そのへんをはっきりと答えてほしいのと、ほんまにこれが現場

の先生方の同意があるのか、議論の観点を替えた方が方がいいのじゃないかなと思います。それと、統合についての話は、時期はいつから出ていましたか。なぜなら、僕らは去年こちらに引っ越したんですが、この時期を知っていたら別に神戸に住んでたかもしれない。なぜなら、小学生が家が近い方が便利かなと、正直、交通の便というのを思います。そのへんをちょっと教えていただきたいなと思います。

< 地域の方 >

今子どもは在学しておりませんが、長女と次女が清和台小学校に通って、今は孫が小学校2年生で通っております。一回目の説明会にも参加したんですが、まず第一に、この話、地域の住民の意見とか、何も聞かないで進められてここに案を出されて第1回の説明会でもそういうことを聞いたんですけど、子どもの数が減って単学級になるのではという、一応文科省の方針とかいろんなことは先ほどから説明があったんですけど、全然心に響いてこないんです、納得できない点がいっぱいあります。そのことで、私は、この案は一旦白紙に戻していただきたいというのが一番の思いです。子どもが地域にいて、子どもたちの元気な声が聞こえて、地域のコミュニティや住民のみんなと一緒に子どもを見守りながら、子どもたちが何が一番大切なのか、安全とか安心とかそういうことを一緒に考えながら暮らしていける、この清和台小学校がなくなるということは、大変なことだと思っております。自治会においても、清和台のコミュニティにおいても、大変な損失だと思っております。今小学校統合ということは、少子化の問題が出てきているからだと思うんですけども、今全国平均、合計特殊出生率は、1.42で兵庫県が1.41と聞いておりました、この川西は1.25ということで、さらに低いんですね。先ほども二人の方がおっしゃいましたように、いかに川西市に若い人に住んでいただいて、子どもを産みやすい、育てやすい環境づくりをして子どもの数を増やしていくしかないというふうに考えることが大事で、まずそれが大切で、統合はそれからだと思うんですね。その結果どうしてもだめだということになったらそういうことが考えられると思うんですけども、この清和台の中でも高齢化がどんどん進んでおります。高齢化が30.5%とさきほどお話がありましたが、そういう点でも過疎化がどんどん進むということに、拍車にかかるということ、統合の問題は。そういう点からも私は反対いたします。やっぱり子どもたちにとって、この清和台小学校を存続させる、地域のみならずその子どもの元気がもたらえながら、地域が活性化していくということが大事だと考えております。

小規模校であるということと、単学級ということはまた別のことと考えております。単学級というのは、一つのクラスしかない。その中で一つの集団しかないということについては、もちろんメリットデメリット裏表の部分がありますけれども、現在の教育の中では、やはりリスクが多いと考えております。子どもたちも関係性に広がりがないということは、その人間関係が、うまく行っているときはいいですけど、万が一こじれたときに、その状態が長いこと続いてしまう、もちろん複数学級になってクラス替えをしても本当の問題は解決していないじゃないかというご指摘もあるんですけど、基本的に解決していても、しばらくの間また何年か続くと6年間同じ学級でいるというのは、やはり子どもたち同志にトラブ

ルがあったときの火種になるんじゃないかなと考えています。一旦クラスがかわって、また次の年いっしょになるというようなクッションになっていると、そういうようなことを選択肢があるということについては、やはり複数学級の方がリスクは低いと考えております。特に昨今ですね、子どもたちのそれぞれの関係ということ、また私たちおとな自身のそれぞれの関係というのは非常に難しい側面も出てきております。ご存じのとおり、情報機器端末の発展によって、いろんなトラブルになる、問題解決の仕方について、難しい側面がでてきております。そういった中で子どもたち自身の人間関係の広がりが必要なんじゃないかというのが一点です。

もう一つはやはり、チャンネルが多い方がと言いますか、個々の担任の先生と息が合って非常に楽しかったというのが大事なんですけど、もしそのチャンネルがうまく行かなかったときに、よそにもチャンネルがある、つまり複数の教職員でできるだけその同じ学年を見れるというのは大きいことではないかなというふうに思っております。教職員が増えることによって、相談出来たり、色々自分に合った教職員に接することができる、そういうチャンネルが多い方が、リスクが少なくなるのではないかとそのように考えております。従いまして、できるだけそういうリスクというのを、起こってからではなくて起こる前にきちんとした手立てを打って行けるというのは一つの方向性であると認識しております。

それで、ご提案いただいた色々なことでございます。普段の生活リズムとか、ここでもスケジュールを出ささせていただきましても、小中連携ももちろん大事です、中学校を介した連携も大事なんですけど、小小連携、清和台小学校と清和台南小学校が一緒に行事したり、一緒に教育課程で学んだり、顔を合わせたり、交流する場面を意図的に作っていく必要があるというように考えております。そういう中で、一緒にやれるものを検討していったり、その内容について考えていくのが大事だというふうに考えております。そういった教育課程との調整については、現場の教職員の方にもご協力ご理解いただかなければならないというふうに考えています。こういった保護者や地域の説明会をさせていただくと同時に、その教職員の方にも、説明会を持たせていただいています。その中で教職員の方からあがっていく意見や不安なども吸い上げつつ、ご協力をお願いするというような形で進めさせていただいているところでございます。それから地域の消防署とか警察のご協力ということについては、ここの地域の方々、非常に学校教育の運営にご協力いただいているとお聞きしております。学校活動以外でも、連携されているということをお聞きしておりますので、そういった形が清和台地域のコミュニティであるということで、継続していきなり、あるいは発展していったものを実施していただけるようになっていただきたい。ただそれも、色々な課題がありますので、先ほどもお話をさせていただいたスケジュールのところがありましたように、統合にかかる協議会というところで具体的にお話をすすめていくなかでこういうことをやっていこうということで、進めていきたいというふうに考えております。

それから子どもを増やす政策を考えるべきということについてです。仰るとおり、先ほどありました人口推計は非常に厳しい推計であります。十年後、二十年後、三十年後を考えた場合、本市におきましても教育委員会におきましても、右肩下がりの傾向はあるものの、これをできるだけなだらかなものにしていく必要があるというふうに考えております。そのた

めに色々な施策について、発信が足りないということです。その都度発信していく必要があるかと思っています。ただ、事実として、色々な原因が重なってこの少子化、色々な要因としてある一つの傾向であるかなと。それに対する対策と言いますか対応を、私たちも先を見据えてやっていく必要があるのではないかな、そういった中で、小学校を統合するものの、より充実した小学校教育、中学校教育をやっていくことが地域のコミュニティの活性化につながっていくのではないかなと考えております。小中連携とか、小中一貫とかもお示しさせていただいた、そういうことも施策のひとつではないかというふうに考えております。担当が変わります。

統合のご案内が、いつからあったのかということなんですけれども、実際にHPなんかで明確に年度を公開したのは26年度の審議会会議録です。じゃあ宅建業者やら不動産屋さんがそのあたりのことをちゃんと皆さんに伝えられたかということ、申し訳ないんですけど、そこまでのリサーチはできていません。で、神戸からおいでいただいたということで...

なんでしなかったのか、こちらに移ってくるのはいいんやけれども、統合があるという情報は市長も持ってたんと違うのと言いたいんやけど。持ってないん？

平成26年度の審議会から統合についても公開になっていますね。常に公開させていただいております。ただ、今の話というのは、誰が言った言わないとか、知ってた知らないの話になって、あんまり、こちらからいうのもおかしいんですけども、お互いに問い詰める関係ではないかなと思っています。で、HPの方では、平成26年度から公開はさせていただいております。それからもっと古くからの話をいうと、川西では南部で1件統合がありました。これは平成6年ごろなんですけど、この時に市内の全域について、同様に、児童の少子化の傾向について分析をさせていただいております。だからというわけではないんですけども、そのあとずっと6年間スパンで、毎年子どもの数について分析は続けております。今回、具体的に、この道しかないんじゃないかということで、ご提案させていただいたわけなんですけれども、如実にこの単学級という状況がでて、どうしても放っておくわけにいかないということで、今回、教育委員会としての案を提示したわけです。

< 在籍・未就学 保護者 >

ずっと疑問に思っていることが、31年に統合決定したものを住民説明会ということ自体に、納得がいったんですけど、26年度に話が出たということに関して、31年に決定しているのはあまりにも話し合う時間が少なすぎるし、決めること自体多いのに、その間の短さっていうのはどうお考えなのかというのと、統合するならば安全面とか協力面すべて整ったうえでの時期を提示するべきではないのかなというのはすごく感じました。資料やら数字やらすごく並べていろいろ言われたとしても、順番が違って、実際に子どもと一緒に生活していくうえでの安全が見えてこないのに、納得なんて保護者ができるわけないと、そういうふうには考えなかったんじゃないかな。

予算がないとか、これだけ反対がでている中で、単学級っていうのが本当に悪いものなのかっていうことが見えてこない、そういう意図が伝わってこないっていうのはどう考えているのか。二つの学校を存続したうえでの、地域の活性化っていうのをもうちょっと考えていこうとしていかないと、統合という話も説明したうえでこういうふうな説明会的なものって、今後どうしてくべきかというのを地域の人と話し合ってから最終的に統合というふうになるのであれば、納得できるんですけども、先に統合という話を出してから話し合いというのは納得できないです。

< 在籍 保護者 >

まず、私も、今まで何人かの方がお話されていまして、統合するっていうのに対しては反対です。単学級のメリットデメリットの話をしてきて、単学級のデメリットとして、問題が起こった時に、クラス替えをすることとか、上の学年に上がる時とかの問題が解消できるんじゃないかという話をされていたと思うんですが、それをもう少し大きな視点で考えますと、例えば小学校の中で問題があったときに、中学校に持ち上がるときに、複数の小学校が統合してですね、統合するっていうか一緒になって中学校に通いますよね。たとえば清中でしたら、清小、南小、けやき坂ですか。そういう時に、小学校の中での問題がリセットされて、中学校でそういう小さな問題が一度解消される、っていうメリットがあったと思うんです。それは私の年齢なりの経験からいうと、昔学校問題がいろいろあって、中学校で一度リセットされるというのが、いろいろあったと思うんです。ですから統合することによってその辺のメリットが逆になくなってしまうかなと。例えばけやき坂小学校が、清中にあがるだけけれども、そういう問題っていうか不安といいますかね、清小、南小が統合してその生徒がそのまま清中に上がる、ほとんど一貫に近い形になってしまう恐れもあるのかなというふうにも思っています、小学校の問題がそのまま中学校にあがるっていうことも気にしています。あとですね、法律的な問題で、1学級のクラスについては35人、40人という標準があるっていう話をしましたけれども、前回説明会の時には、外国のことを伺いますと、30人くらいとかもう少し少ない方が本当はいいんじゃないかという話があったと思うんですね。私もその考え方には基本的には同感でして、いろんな子どもの話は聞いていまして、学校の先生って非常に忙しいんだと。子どもに対しての対応とか学校の中の行事とか、もう少しできれば一人ひとり目を向けてほしいなと。時間を取っていただきたいなと。そういうことから言いますと、これは制度的な問題だと思うんですけど。たとえば最高、上限が30人という方が、理想の教育ができるのかなというふうには思っています。今後こういう法律なんていくらでも変わっていくと思うんですね。基本の問題として少子化の問題もありますので、もう少し少人数でいいんじゃないかという話も出てくる可能性もあるかなと。そういう意味では、単学級制度のデメリット、一概にそればかりをとらえているのはどうなのかなというのが一つの思いです。

次にですね、あえて統合の話を進めていくんだという時に、南小と清小、どちらに統合していくんだという話で、33年度までのデータですね、住民票の数で推計されてますけれども、これは当然今産まれているお子さんの数で予測される数だと思うんですね。ただ街づくりの話とかあったと思うんですが、31年度統合して出発してですね、仮に統合が進むとその先5年10年、そこが問題になってくると思うんですね。このデータから見ますと、明らかに清小より南小の子どもの方が

減っていると。減り方が大きいので、このままでいくと、逆転するのはすぐに、33年以降に見えてくるかなと思うんです。その辺のデータを例えば外部機関、調査機関に委託して、その辺の予想ではありますけど、その辺の数値をオープンにしてもう少し、説明していただく必要があるかなと。それはおそらく街づくりも含めて関係してくると思うんで。統合予想の31年度のすぐ後の直近の話だけしてるというふうに考えました。

最後、小中連携みたいな感じで統合の理由づけされてるんですけどもね、全国で66%ですか、統合の方と考えると進めていくという話がありましたけれども。これはおそらく別に統合というのとは関係なくって、いろんな問題含めて、連携したほうがいいという根拠で全国的にすすめられていると思うんですね。ですから、小中連携を根拠に、今回の統合の話を持ってくるのは、理由づけが違うかなと。これが例えば距離的な話で言うと、これが小中一貫っていう話でいくのであれば、確かにそれが理由づけになってくるのかもしれないですけども、連携であれば別に、今のままどんどん進めていただいて、いいところがあればやっていただければいいかなというふうに思うんです。むしろ単学級の清小、南小は、それが起こってもですね、学校同士の交流をどんどんやっていけば、別に単学級のクラスが清小、南小それぞれあっても、それはいいんじゃないか。中学校になったとき、一緒になって、ある程度事前に交流してるのでスムーズに進めていけるんじゃないかなというふうに考えました。

< 在籍 保護者 >

さっき質問しようとして遮られたんですけど。中学校の、小中連携事業ということで、別にそれは、進めて頂けたらいいかなと思うんです。先ほど施設のところでもありましたけれども、中学校の距離、先ほど言われた方もいましたけども、まあ、ソフトで計ったというふうにおっしゃっておられたんですけど、私も2つの方法で計りましたけれども、何回やっても1.4にならないんです。

次回説明会で、距離の根拠を示して欲しい、というふうに思います。何が言いたいかという、要は、ここから中学校の距離と、南小から中学校の距離と、これでいくと、我々ここに住んでる住民にしちゃ、そんなにずれはないという距離、ということと、それを水増ししているとは言わないんですけども、先ほど、26年度、審議会をしたというところにおいて、その審議会に、清和台の自治会なりコミュニティもしくはPTAのメンバーも入って進めておられたということであればいいんですけども、違うと、いう形ですので、そこらへんが、本当に、こうやって聞いて、ここまで案を作り上げて、自信があるとおっしゃるのであればそれでいいかなというふうに思いますけれども、そこが皆さんが疑念を抱いているところだというふうに思います。で31年度までの作業、というところで、今の時期に説明会をして、31年度というのはちょっと遅いんでないかなと。31年度にするべきであれば、もうちょっと早くみなさんに知ってもらって、先ほど意見もありましたように、住んでいきなり統合というのは、あまりにも強引すぎるのではないかなというふうに思ってます。

まあ今から、こういうふうに周知して説明会を開いて、いくというのであれば、別に今、私は今の皆さんの意見、単学級の話も含めて、必ず31年度にしないといけないという必要はないと思えます。これから、地域・保護者の意見を聞いて、良く案を練って、まあ今後の学校の在り方を決めていったらいいのかなというふうに思います。

< 在籍 保護者 >

10月に今回の第1回の説明会がありましたよね。そのあとなんですけれども、清小の方で、12月に保護者の方向けに緊急アンケートを取らせて頂きました。で、先だってなんですけれども、大塩市長並びに教育長の牛尾先生の方に、そちらの緊急アンケートの結果とまとめた趣旨を、お渡ししたんですけれども、そちらは一読して頂けたでしょうか。市長の方にも手に渡って頂けたでしょうか。その時ですね、市長の方に必ず手に渡るかどうか分からないという返答を頂いたので、それでは困る、必ず市長に、この統合説明会までに目を通していただけるようお願いしたいということで、帰らせて頂いたので、そちらの確認を取らせて頂きます。

で、そもそもなんですけれども、力を合わせて協力して統合を進めて頂きたいというのを今回もお話し何度か頂いたと思うんですけれども、清和台住民は全く寝耳に水でしたし、ましてやPTAのほうもまったく聞いておりませんでした。この10月に教育委員会からお話を聞いて私たちもびっくりした状態でお話を進めています。その中でなんですけれども、2600万人の小さい子どもがいなくなる、その中に川西市に呼べる人数がどれだけなのか、ましてや清和台ですね、これを考えるとその中の川西の住民の中から、小さな子どもたちを清和台にどれだけ呼び込めるのかっていうので、清和台の街というのは大きく変わってくると思うんですね。で、統合についてなんですけれども、1回川西市は失敗していると思います。加茂小学校の時に統合はうまいこといったんですけれども、跡地問題は20年間たってもまだ廃校したまま、そのまま潰されずにおいていますよね。そういう跡地問題みたいなものもありまして、清和台が統合を進めていくにあたって跡地問題はすごく大きく関わってくる問題だと思っています。私個人の意見で、私はとても反対です。明快な理由ですね。清和台の住民に全く問うていない状態で、会議室で話を進めてしまって、1つの提案として、説明会で決定事項として話をしたというこの大きなことを、私としては反対せざるを得ないような理由であります。で、今教育委員会で具体案や納得できるお話がでないなら、はっきり言って無限ループで先に進まない話やと思うので、もう少し丁寧な主張、もう少し具体案、子どもに対しての安全対策や今後保護者に対してどういうふうな進め方をしていきたいのか、具体案を、1回目の時にも申し上げたんですけれども、提示して頂きたいと思っています。ちょっと長くなるんですけれども、この冊子についてお話しさせて頂きますね。冊子2ページ目になるんですけれども、統合について、単学級にならないように教職員を増やせばいいのではないかと、という意見なんですけど、これは清和台で論議され、私の記憶が正しかったら、論議されておりません。なので飛ばさせて頂きます。で、冊子3ページ目です。統合について、なぜ平成31年に統合するのか、ということなんですけれども、28年度を1年目として換算すると33年度が6年目になります。で、6年目に清和台小が1年生19人、南小26人になるということで、これでちょうど、今申し上げますと、今年入学する子どもたちからちょうど単学級が2校とも現れるという統計が出てます。で、この統計からいきますと、清小の保護者が感じていることはですね、両方現れる6年後どうして統合がそこで、スライドされるということだったらみんな納得できるのに、どうして平成31年度にこだわるのか分からないという意見がたくさんありました。で、高学年の子たち、今1年生2年生の子が、統合31年にあたるんですけれども、その31年がちょうど高学年、一番思春期にあたると思いますので、高学年の統合でデメリットがあまりにもメリットに対して大きすぎる、保護者も統合につ

いて関わることで疲弊するという意見がたくさんありました。こちらあの、私たちのアンケートを見られていない方もいらっしゃるので、そちらをご報告差し上げたいと思います。で、残すときには、統合の施設についてなんですけれども、施設については、残すとき、もちろん築年数や面積のこともすごく主流になるお話しだと思うんですけれども、ハード面もソフト面も必ずクリアすべきなので、この資料は全く役に立たないと私は感じています。向かって4ページなんですけれども、平成33年に清和台小学校、南小学校共に1クラスになるというのが表れているのでこちらもグラフで確認してください。あと、小中連携についてなんですけれども、前回、教育委員会の方おっしゃられたんですが、小中連携が先、幼稚園のことは考えていないというようなお話だったんですけれども、アンケートの中の結果で、どうして公立幼稚園を選ばない保護者が多くなったのかという意見もありました。それには、公立幼稚園に魅力を感じない保護者の方が私立に奪われているのではないかということであって、これは川西の姿勢がですね、幼稚園に対する魅力づくりが乏しくなっている原因から、公立幼稚園が選ばれなくなったのではないかと推測されます。あと、6ページ目です。小中連携の教育についてなんですけれども、私中学校の子どもがいます。そのなかで中学校1年間過ごしてきた中でお話しさせて頂きたいんですが、小中連携のメリットですね、今まではたった1回です。出前授業ですね。中学校の先生が小学校に年1回行き、中学校の教育とはどういうものかというのを、1時間授業していただくという授業があるんですけれども、今川西市が打ち出しているやつで明確に言えるっていうのは出前授業年1回しか私の中では記憶にありません。なので、小中連携に関してはですね、統合とは別のところで、どうぞ関係なく進めてくだされば結構だと思います。これはとてもいい事なので、統合とは別の場所で、小中連携っていうのは進めてください。中学校の先生は中学校のことだけで精いっぱいです。で、なおさら小学校と中学校が離れているから連携教育が出来ないっていうのであれば統合ありきの話だとすればですよ、他の学校でもし小学校と中学校が、地域の中で離れている学校があるとすれば、その学校は同じ教育が受けられないと考えられますよね。そうなる川西市に住んでいるのに、同じ教育が受けられないということは、おかしな問題だと思うので、これは統合問題から、概念として外していただきたいと思います。

あと、通学についてです。前回もそうですし、アンケートの中でもありました、実際に清和台地区の坂を歩いてみてくださった市教委の方はいらっしゃいますか。雨の日、雪の日、風の日、荷物を持った日、歩いてみたことはあるんでしょうか。もしあるのであれば、少しでも感じると思うんですが、私保護者の立場で石道から歩いたときに、私でもゼイゼイハアハアいいます。ましてや自分の体重と同じに等しいくらいの荷物を抱えて歩こうと思ったら、歩けますよ、歩けますけどそれを毎日、子どもたちにその負担をかけて歩かせるかって言ったら、私はとても考えられないと思います。あと通学について、8ページ目なんですけれども、校長会及びPTAを通して情報提供されているという、子ども見守りサービスなんですけれども、校門でればICチップが感知して、今学校でたよという、保護者の方に連絡が入るというシステムなんですけれども、これでは弱いです。防犯カメラの設置と連動して伊丹のようなGPSくらいの効力がないとこれは何の効力もないと思います。あと、9ページなんですけれども、これは一番お聞きしたいところなんです、確実にお返事を下さい。第1回説明会の時に校区外就学、5%枠のことについてお話しいただきました。その時に私質問させて頂いたんですけれども、これはいたずらに清小から人数を、よその学校に行っ

てもいいよと促すようなものになるのではないかと、いたずらに単学級を進めるものではないかということで質問させていただきました。で、それは学校の先生に確認して頂きましたかということで質問させて頂いたんですけども、その時に頂いた市教委さんからの答えは、学校には確認しておりません、この場で発言させて頂きましたということでした。で、12月に、その時は(案)となっていたんですけども、12月に突然手元にお手紙が届きまして、清小から、清小と南小に配られたと思うんですけども、(案)がとれた状態で5%枠の特別枠を外します。清小さんからは、清和台南小学校、陽明小学校、けやき小学校、東谷にいけます。でも、反対見ると、清和台南小からは清小だけにしかいけないというくりで書いてありました。今、統合を進めている段階で、市教委として方向性を示しただけ、とおっしゃるのであれば、これはどう、どっちがどの学校に行けてもおかしくない状態で提示するべきじゃなかったんでしょうか。清小からたくさんの学校に行けるってことは、清小からいたずらに人数が減るということになります。これの返答必ず本日中に頂きたいと思います。

長くなったんですけども、統合ありきのお話については、十分に子どもの事をですね、安全安心を題材にお話を進めてもらいたいと思います。市教委として子どもさんにどういうことをしてあげられるのか、夢のあるプランを立ててあげられるのかということで、もう少し子どもの立場や親御さんの立場にたったもの、もう少し提示して頂けないでしょうか。重ねてお願い申し上げます。以上です。

< 在籍 祖父 >

すみません、あの、先ほどのご意見中で学校支援の5%枠のことでお話が合ったんですけども、私も孫が学校から貰って帰ってきたプリントの中で、どちらに行くか、どちらを選択しますかという、小学校の選択ですね、清和台小学校行かれてます、希望しますかという用紙を持って帰ってきた時に、12月25日までに必ずご回答くださいというような趣旨のプリントがありましたけれども、あれはどういうふうな経過でどういうふうに決められて配られたのか、何か大きな目的というか、があったのかとすごく感じました。保護者に不安や混乱を抱かせるような内容ではなかったのか、本当に必要だったのかということをごすごく感じております。1回目の説明会の時にこれは決定ですか、とみなさんがご意見してくれた時に、いえまだ決定ではありませんと言いながらこういうアンケートがとられるということが納得いかなかったんですけども、その点についてもご回答いただきたいと思います。

説明の在り方というか、統合の手順というところでございます。基本的には答申です。諮問させて頂いて、統合せざるを得ないという答申を頂きました。それが昨年3月...6月か、6月に頂きました。それを受けて教育委員会の中で十分検討させて頂いて、市長部局とも必要な協議をさせて頂いたのち、1つの方向性ということで説明をさしあげた次第でございます。それが10月が第1回目ということで、この時には、教育委員会の方針をお示させて頂いた、というようなことでした。それぞれの方々の、お住まいになっている地域であるとか、お子さんの様子であるとか、そういったことがある中で、基本的にはやはり基本的な姿勢を示したうえでご質問やご意見を受けるのが妥当であるというのが教育委員会の判断でござ

います。そのような中で今日、今回もご意見を頂いているというふうに考えております。

単学級について、いろいろご意見頂きました。小学校でいろいろあったのが、リセットされて中学校に行くというようなこと、仰る通りだと思っています。先ほども申しましたように、学級の定員と単学級であるということは別で考えております。私も学級の定員は少ない方が良いということで、35人学級については県・国の方にはずっと要望させて頂いております。現状では1年生から4年生が、県の施策もあって35人、それ以上は40人学級という形になっています。5年の時期に40人学級という定員が増えることについては、私どもも、35人のままにして欲しいし、そういう施策をして頂きたいと要望させて頂いております。それがまあ、35人が妥当であるかということについては、やはり今の子どもたちひとりひとりをきめ細かく、学習であるとか、対応するためには1学級の定員は少ない方が良く考えています。その辺については国の方も見ながら、考えています。ただですね、ご存じのとおり、国の方も、今1年生で35人学級したときには、何年かかけて中学校3年生まで35人学級つくと、文部科学省がしていたんですけども、今それが財務省の方から、35人学級の教育効果がないんじゃないか、40人学級に戻すんじゃないかというようなことで、国のレベルでもよくやり取りをしているところであります。私どもも先ほど申しましたように、1学級あたりの人数が少ないのが、現在の在り方ですし、国レベルで考えても市レベルで考えても、現在の定員は多いんじゃないかと思っています。

それから児童数の推移、客観的なデータと言うふうに望まれてますね。もちろん住民台帳を基にした推計でございます。けれども多少の誤差はあるかなと思います。少なくとも、そんなに大きな増減はない、という事は今までのデータでも出ているところでございます。もちろん社会が大きく環境が変わった時に、変わることも考えられます。その時によほど人数増えるということになればまた考える必要あるかなと思っていますが、ひとつの傾向を示すものじゃないかなというふうに思っています。

それから、ちょっと、私どもの説明が足りなかったのかと思いますが、小中連携をするために統合するということではございません。ただ統合した時に、やっぱり統合自体が大きい問題でございますので、それを出来るだけケアする、していくためには小中連携を進めていく方が良いのではないかと考えてございます。したがって、連携先ありきということで統合していくということではございません。ただやっぱり私どもは基本的には、先ほども言いました、子どもの数が少なくなっていく、それはどこの地域にも言えることであり、またゆくゆくは中学校にもそれが及ぶであろうということは予想されることです。その中で小学校、中学校が今まで以上にひとつに繋がっていくことは、考えていかなければならないことかなと思うんです。資料の方の、人数のところがありまして、そこに、中学校とか小学校、多田小学校区どうしていいのかということも挙げさせていただいておりますけれども、これから先20年後、30年後、考えていくときに、やはり小学校を、コミュニティをまたいで統合していくのか、さっき出ました他の自治体全部まとめてひとつの小中一貫校作っていくのか、それとも、地域の中に出来るだけ学校を残すかたちで、小中学校1つの学校というような形でやっていくのか。または、それ以外の方法があるのかというのは、考えていかなければならないことだと認識しております。

それから、審議会についてでございます。審議会は、基本的にはそれぞれのメンバー、またあとで担当から説明させていただきますが、が出て頂いて、基本的には客観的なご意見を頂くということで、その客観的なご意見に基づき、最終的には教育委員会事務局で案を出させて頂いている、だから今ご提示させて頂いているものは答申と同じではありませんが、統合先でありますとか、そういうことについては、教育委員会としての案を示しています。

それから、先ほどちょっと説明あった、誤解があると私も嫌ですので、アンケートについては今週の月曜日に、部長室で頂きました。これはもう確認しております。そして牛尾教育長にもお見せするという事はお話ししています。手に渡るかわからないと言ったのではなくて、今週に間に合うかどうか、市長に今週、決裁が間に合うかどうかかわからないとお話ししたかなと思っています。基本的にはお渡しさせて頂いて、目を通していただいているということでございます。

それから答申頂いた段階と、教育委員会事務局としての案を出した段階とあるんですけども、答申頂いた段階では連合PTAの方に説明、答申頂きましたという説明はさせていただいてるかなというふうに思います。

跡地問題についてでございます。ご指摘の通り、跡地問題について、加茂小学校加茂西小学校の統合について、その跡地が残っているのは事実でございます。私もやはり、先ほどの街づくりの視点からも置いておくというのは本意ではありませんし、活用できていないんじゃないかなと思います。今の話としては10ページの上にあるように、教育財産という話はさせて頂きました。教育の目的だけですのであれば、教育委員会として考えて、教育財産として運営していくというのはあるかと思えます。ただ先ほど申しましたように、大きなまちづくりとして考えていくときに、果たして教育だけで本当にその活用を考えていいのかというところで、いったんはやはり市の財産として、いろんなアイデアを頂きながら、どんな形になるかは分かりません、福祉的な面、教育的な面または、色んなこと考えていく必要があると思います。そうすると窓口は大きい方が良さだろうというふうに、それは市長部局にも確認しております。そういったことで、市長部局を明確に窓口にして、市の施設、統合後の施設について、活用を検討していくことにしています。これについてはやはり出来るだけ、統合してからの話ではありますけれども、やはり同時に進めていく必要のある話じゃないかなと思います。出来れば地域の方に参加して頂いて、そういう窓口と一緒に、必要なところは入らせて頂いて、協議を進めていく必要があるんじゃないかなと考えています。

それから平成31年ではなくて、平成33年度ということでご指摘いただいております。お気持ちは十分理解しているんですが、ただ同時に単学級であるクラスで在籍する子どもたちがだんだん多くなっていく、またその年数が長くなっていくことについて配慮が必要かなと思っています。やはり全体の方向考えた時に、統合とか、考えていくときに出来るだけ単学級のリスクを減らすためには平成31年度がひとつの目安じゃないかなということで提示させて頂いております。

で、幼稚園、公立用幼稚園との連携ももちろん必要です。公立幼稚園の在り方についてもこども未来部でやっているところですが、先ほども言いましたように就学前教育の在り方については、公立・私立それから幼稚園・保育所の隔てが取り払われようとしています。そう

いったことを考えた時には、やはり、全体を見て、清和台地区全体の就学前教育との連携をしていかなければならないということで、しないということではなくて、そういうことも進めていかなければならないかなというふうに思っています。で、連携自体も今現状でそれぞれの中学校区の特色はあります。出前授業という形で学校に行ったり、または小学校の先生が来たりという形の出前授業もしていますし、そのような活動もしております。そういった活動は今後も、単発的な、先ほどもありましたように単発的なものではなくて、もうちょっと恒常的にやっていっていいものじゃないかと考えております。そういった点から考えさせていただいているということです。

子ども見守りサービスについて、防犯カメラとの連動ということで、伊丹でそういうことがされていることについては私たちも了解しております。そのような意見や考え方があるということも、市長部局では検討しているところです。したがって、子ども見守りサービスが無駄であるかということは、ちょっと意見が分かれるところかなと、それでも安心できると言われる方もいるかなと思います。ただ、他市の実態を聞きますと、大体4割から6割の保護者が利用されていると、逆に利用されていない保護者もあられる中で、一律いっぺんに公費にするというのはちょっと難しいかなと思ってます。まあ、使用される方が、共有して、その中学校区というか、中学校、小学校それぞれの単位でご協力頂くのが妥当ではないかなと思っております。担当が変わります。

特例調査のことについてですが、前回の説明会の時の資料にもありましたが、私どもが統合の案内させて頂いたときに、在校生が、選択の余地がないじゃないかということで、予想されたわけです。そこで、この説明会、第1回目の説明会の時は(案)でしたが、在校生の方がどう考えているかということで、ご意見をお伺いしますよという趣旨で、実施したもので、決して誘導するとかそういう趣旨ではございません。そこはご理解ください。で、ここで、多分おられるかもしれないけれども、どういう意向調査があったのか説明します。今回、緑台地区、清和台地区で統合の案件があります。統合される学校と残る学校があります。で、残る学校の負担と統合されてしまう学校では、どちらが、今の段階で負担が大きいというか、選択の余地がないかということを考えました、そうしますと、やはり、こちらの清和台地区でしたら、清和台南小学校と清和台小学校でしたら、清和台小学校のほうが選択の余地がないということになります。そこで、もしこの先この案が進んでいって、清南小と統合となったらどうしますかということで、5%枠を超えて、2年生であっても隣接校区に行く事が出来ますけど、どうしますかという意向を確認させて頂きました。教育委員会では、もしこの方々が多かったら、これは言わなあかんなど考えますし、少なければ慎重にすることを知りたかったんです。実際には、最初の説明でも申し上げましたけれども、清和台小学校から隣接校区として選べるのは、清和台南小学校、陽明小学校、けやき坂小学校と東谷小学校、これは隣接しているから選べるんです。そして選択の余地が少ないから、これだけの学校を選べますけども、どうされますかという趣旨で、ご意見を聞いたんです。12月末で締め切らせて頂いていたのは、統合説明会もありますし、ご意向を早く確認したかったからです。しかし、実際にはほとんど申請はなかったです。本当に個別の事情がある方だ

けでした。逆に清和台小南学校から、特例使いますかということで、意向調査出させていた
だいたんですが、選べる学校は清和台小学校だけです。この趣旨は、隣接校区にしてい
ないのは、行くとしてもこちらの学校、つまり清和台地区からよそには行けませんよという趣旨
です。そういった意味で、他地域や、他校区への流出が最小限で、かつ、今おられる方々が
選べる範囲ということでのアンケート調査ですので、もし誤解があったのであれば、この場
で、外へ出すため、あるいは流れ出させるための案ではなかったとご理解ください。まあ実
際には、ほとんど影響なかったんで、あとは個別事情の方だけとお話しさせていただく予定
です。

校区審議会は、専門の方々と、地域の代表というなかに、南部中部北部の方でも代表の方
が入って、全部で10人の方々に審議会委員の方々に、これは26年に諮問させて頂いて、
昨年度6月に答申頂きました。その中で統合については2地区出たんです。それを踏まえて、
実際には昨年度の、昨年度の実際10月に初めて表に出ました。当然前もって、役員の方々、
それから関係者の方々にお話しするその中で、当然それは、住民の方々に説明するというこ
とで、その瞬間というのは初めてなんです。だから初めて聞かれることも重々わかります。
それから、来年統合するかっていうことではないんです。26年度27年度、準備をしながら、
そして情報を集めながら、そして昨年度の10月に1回目の説明会を持ち、今日2回目
です。つまり、28年度にするというわけではないんです。28、29、30年度の3年間
の中で、31年度の4月につくまでにていねいにしていこうと思います。子どもたちの交流、
PTA活動の交流、地域の方々の交流。そういう中で、今一定の条件で南小の方に考えてい
るんですけども、こちらの方の跡地はどうするんだということも3年間の中で、当然市長
の考えるわけですからね。少子化が進む中で、当然、いろんな形でこれが、子どもたちが減
らないよう一定の努力はします。親元近居助成制度だけでは難しいですし、一定の公共施設
の再配置の計画を立てる、それから、街づくりの面ではふるさとのことについてですね、こ
ういった取り組みがあるこの清和台地区も、今の現状維持か、来て、入ってもらえるような
努力をしながら、でも並行して、住民の方々にとってですね、どういう街づくりをしたら
いいかということは、教育の中で出てこようかと思います。コミュニティのものと、自治体関
係のものと、それから住んでおられる方の、今後のよりよい生活をしていくために、当然こ
こが空いたら、よりよいものとして使っていくと、活気を得ていくということも考えてのま
ちづくりだと思うんですね。そういう中で、今、時期については31年の4月をもって3年
間、今年を入れて4年間の中で準備をしながら、ご理解いただきながら進めていきたいとい
うのがひとつです。単学級について、これは強調しているわけではないですけど、大事な視
点なんです。20年、例えば極端に、30人しかないクラスがずっと続く状況が見通しとし
てあってですね、それは例えば行事をしても、合唱関係と保健体育関係でも、運動会ひとつ
とっても、30人で分かれたら15人ずつです。そういった学年が1年から6年までできて、
何回かそういう状況があって、統合しましょうかという状況も、近隣にもあります。6小学
校全部統合して、2中学校統合して1つのところに小中一貫校。当然そこは山を越えてみんな
なスクールバスで通わなければならない。それはひとつの例ですけども、東京なんかはや

っぱりもってあって、西と東にあって、同じコミュニティとか自治会は分かれているけども、そういう中でも統合があって、ひとつのところで、通える範囲の中で、そういう自治体たくさんございます。

あとはハード、ソフト面で、安全面についてです。清南小の中で一番遠いところは清和台東3丁目です。それは、東のリバーサイドのあのあたりから、隣の方の、ウエストヒル、ですかね、坂を降りたところの下のところ。そこから清南小へ行くのが大体一番遠い範囲です。その範囲以上のところで、清小の子どもさん考えた時に、一番遠いのは石道です。石道の、字上ノ町というところと、その下の、家ノ垣内ですかね、それからこちらの、下ノ垣内のところのライオンズマンション、そのちょっとこっちいったところに、芝向そこが一番遠いです。芝内、柴垣内です。全部で19人対象の方がおられます。一番遠いところですよその方々を含めてですね、実際に私が、孫2人連れて、小1と4歳の孫です。そこから実際歩きました。これでいいですよと2.6km。考えてみたら2.6kmで、30分40分くらいかかります。孫で4歳の子と一緒に歩いたんですね。小1の子でも35分はかかります。だとしたら、今明峰小学校の下ところに萩原というところがあります。萩原も明峰小校区です。そこはこの坂を、池があるんですね。萩原の下のところ、細い道を坂を上って1年だって、5年生を先頭に6年生先頭に上がってきてます。私は市役所に行きますと通ってるんですけど、上がって行って明峰中の坂のところまで交差点があります。当然学校安全協力員の方も立って、PTAの方も応援して頂いています。もうひとつは、やっぱり一の鳥居のところなんです。一の鳥居の、一番遠いところが東畦野山手一丁目です。そこはですね、一の鳥居の次にまだ畦野があって、それから山下の駅がございまして、ここから東谷小学校に通っているんですね。苦勞かけていることは事実。学校校区の中に制度に則ってですから、苦勞かけてますけれども、そういう中で、清和台の範囲は、安全面に関しては相当、防犯カメラきちっとついておりますし、今回さらに通学路の地域はつけようと考えております。で、通学路に関しては、今言った清和台3丁目の南小より遠い地域については、通学の支援をしまいいります。ということは、する方向で今大いに検討している所、担当言いましたけれども、その方向で今考えているところなんです。そっからきて、石道で乗る、石道のところで乗られるのか、例えばですね、清和台の営業所で乗るのか、1丁目で乗るのか、中央から4丁目が、南、清和台南の停留駅ありますね、いくつか通学路については精一杯、安全面と距離についても統合が確定しているところで、精一杯、限定的ですけども、してまいりたい。2つ目はですね、統合すると単学級が出来る。単学級がでたら当然子どもたちは不安になる一方と聞いていました。ですからそこにメンバー、単学級に対する調整をするために、統合による調整できる加配の先生なり職員をきちっとつけないと考えています。

3つ目に、統合したらですね、統合したら統合の前、後の方面で心のケアという面では、統合した年が31年の4月でしたら、30年度には心のケア、そういった職員を配置したいと考えます。当然そこは直接配置も含めて心の相談員としてつけたいと思ってます。できるかどうかいうことは今から協議しますけれども、その方向で市長とはお話ししている。安全面では精一杯努力させて頂きたいなと思っております。いろいろお話しさせて頂いたんですけど、本当に、お気持ちは分かります。自分の田舎の学校は全部統廃合でなくなりまし

た。でもそこはそれなりにまた別の形ですね、まちおこしを ここはこれだけのですね、一定のマナー、ある面では、地域コミュニティがしっかりして頂いていますし、そういう中で、ただ、400人くらいの規模になってですね、単学級が3年4年と続く境遇が出てくる中で、やっと深く考えて統合する論議にするよりは、私はすこし、子どもたちのために、単学級が出ることなく、30人20人ふたつに分けて、運動会とか合唱コンクールとか例えば、就学校っていう教育って言うものを兼ねる時にはですね、一定の就学規模というのは、子どもたちの人間関係作りとか、調整能力とかコミュニケーション能力とか、子どもたちの生きる力を育むためにも、一定の組織の規模というのは必要だと思います。それから、本当に一定の就学規模というのは必要だと思います。また課題として検討していかなければいけないものも含めて、これから先、一定の期間と場所とそれから方向性というものをお示しさせて頂いており、これからもそういう方向で考えて、今の段階では教育委員会としてこの考え方で進めていきたいと考えていますので、よろしくをお願いします。

< 在籍 保護者 >

今現在2人が小学校、清和台小学校に通っています。このまま話を進められても、みんなが同じ方向を向かない限りは決してうまくいかないと思いますので、もっと話し合いをたくさん持って、みんなが分かるようにして行って頂きたいなと思います。統合した方は、学力の面で2年ほど、低下するという調査結果が出ていると聞きましたし、それは精神面での関係上あるのかなと思います。それで、何年か前ですけど、自分の学校に行けなく、統合されて違う学校に行くということで、子どもさんが自分の命を投げ出して、という悲しいこともありましたが、それにすごく不安を感じます。やはり親も統合について賛成でない限り、子どもにマイナスのイメージを与えてしまいますし、その辺で、やはりあの悪循環になって、子ども自身がマイナスイメージになってしまう。そこでカウンセラーなんかを配置しますということなんですけど、すごく少ないなと思いました。校区に1名配置とか、年度にはいますが、それ以降はないとか。そんなことも書かれていますので、すごく不安なんですけど、ハンデを持ったお子さんもおられるかと思うんですが、そういう子どもさんに対してのカウンセラーとかもあるのかどうか、あと予算面で統合すれば、教員の数が減って、削減されてほかのほうに回す事が出来るというような感じを受けるんですけど、果たしてそうなのかどうか。カウンセラーを配置したり、あとうまくいかなかった場合もっと人材いるわけですよ。そうすると人件費また増えます。だからその辺の、先を見据えてという部分にそこも加えて欲しいなと思います。あと、今1年生に子どもがいるんですけど、統合する話としては31年度なんで、5年生になっていますが、学力が低下するというその、ちょっと困ったななと思いますし、大事な時期ですので、その時期に統合でたくさん的人数の中に入ります。で、あと中学校、少して中学校入りますよね、そしたらまた中1ギャップなんかで、精神面ですごく苦勞を掛ける。だったら、31年の入学から全員南小で、今現在清小にいる子はそのまま卒業する、そこで卒業するという話に出来ないのかななと思います。色々考えることがありますので、1つだけを、認めて頂きたいというような形ではなく、いろいろ考えて、もっと、こんな形もあります、こんな形もあります、というような形を、もっと時間をかけてして頂きたいなと思います。

あと、安全面についてなんですけど、いろいろ協議会でされていくということなんですけど、実際、

会長さんから言われて愛護の話をするって言うだけなんですよね、今。上のほうの方が来られて、どうしようかということではなく、本当に安全面について、具体的に足を運んでおられるのかどうか、ちょっと疑問に思いました。で、実際、地域の方にどこが危ないかとか聞いて頂いて、子どもの状態なんかは、私たちよりも、学校での子どもの状態は、私たちよりも教育委員会の方が、学校に近い立場なので、当然ご存じやと思いますので、先生との連絡を密にして頂いて、どこが危ないって言うのをちゃんと打ち出して、地域の方にも言って頂いて、で、愛護とか、協力員の方だけではなく、全体で見守りをして頂けるような形に出来ないかなと思っています。

< 在籍 保護者 >

最後にお伺いしたいんですけれども、アンケートがとられて、反対が多かったということなんですけど、それを踏まえて、川西市としたら統合も31年も進めていくということは、変えられないんでしょうか。そういう意見でも、推し進められていく、こういう意見を聞いて、少しでも検討の余地はあるのか、そのところちょっと教えて頂きたいと思います。それと先ほど、教育長さんが言われた、ここよりもっと遠いところあるやないかということなんですけど、下を見るのではなくて、我々ここを住宅地として、昭和45年に分譲されて、小学校が2つあるということで引っ越してきた人も多いと思うんですね。それから、小学校を無くしてもここよりも遠いところあるから、辛抱してというのはちょっとどうかなと思うんですけど。そのへんをお伺いしたいと思います。

ご提案頂きました、出来るだけ同じ方法でみんなが分かる手段というのは考えております。その中でいるんな意見をどれだけ吸い上げていけるかなと、思っています。心のケアで特別支援に係る子どもさんたちにも、だからこそ必要な施策、手立てが必要なかと思いますので。その辺、教職員、先ほど、教職員との説明会もさせて頂いておりますので、その中で現場と協議しながら進めていける部分もあるかなと思います。

2点目は、そういう教育予算の部分、高齢者に向けてというのは市全体で判断されていることだと思います。教育委員会事務局としては、そういうことは全く考えておりません。やはり子どもたちひとりひとり時代を担う子どもたちですから、やはり時代が変わっていく中であっても健全な育成を目指して、必要な予算の要求であるとか、必要な手立てについては、要求する必要があると思います。ご指摘については、今回の統合に関わらず、必要なものだと考えております。

これは決定であるのかについてでございます。先ほども一番最後にスケジュールのところでお見せさせて頂いていました。今日もこういうふうな意見が出たということは、教育委員会、教育委員の方々、それから市長部局のほうにも報告させて頂きたいと思います。その上で、再度必要なことについては検討させて頂こうと考えております。ただ、今のところ、統合年度統合施設、今回の説明で説明させていただいた内容については、基本的には前回と同じように平成31年度で使用施設は清和台南小学校というのでやらさせて頂いています。そういうことを踏まえて今、ご意見や疑問頂いておりますので、それは先ほどもお話しさせて頂いたように、必ず教育委員会、それから市長部局に持ち帰って、検討したいと考えております。従いまして、今日またご意見伺っているものと考えています。

先ほどおっしゃったことの、遠くなるというご意見、前を向く後ろを向くという意味ではなく、現実そういう中で、遠いんですけども行って頂いているお子さんがおられることを紹介したかったんです。法律的には4キロ以内なんですけど、そういうこと言っているんじゃないんです。実質は、どちらになっても、こちらになってもあちらになっても遠い方々というのはおられ周辺の方々だったら負担でございます。そういう面では、ひとつの例としてお出しして、それに対して限られた範囲であるかもしれないけれども精一杯、通学の支援についてはしていきたいと思しますので、よろしくお願ひいたします。

< 保護者 >

教育長が仰られた事情はよく分かりましたので、こちらでまた把握させていただきます。校区審議会のお話なんですけれども、ご存じない方がいらっしゃるかと思いますのでお話しさせていただきます。校区審議会で、お話し合いの場やったと思うんですけど、そちらでは今回統合される予定だった緑台小学校と陽明小学校のコミュニティの会長が出席されておりました。委員は20名で組織されており、そのなかの12名で決議されています。なので途中で本当はこの話、統合の話ってというのはする予定ではなく、校区就学制度ですね、5%枠を今後どうしていくかというお話をしていた中で、いや、どうもこれは単学級が発生する、これは統合を進めなければいけないのではないかとということで、統合の話が持ち上がったと聞いております。これは間違いないですよ。で、その中でですね、コミュニティの会長は出席しても良い、20名まではメンバーは招集される状況であった、その状況の中で、清和台のコミュニティの会長を招集しなかったということに私はすごく不平等性を感じております。で、校区審議会の中でも校区審議会のメンバーが、清和台のことを他区の地区の人間がどうやこうやいう場合ではない、正確に清和台の人間に聞いた方が良いのではないかと、清和台の住民に十分話しているのかという記述がありました。その中で、校区審議会の方たちも、不安に思いながらこの案件を進めていたということを読み進める事が出来ました。そのことをみなさんに報告しておきます。で、それでその後なんですけれども、市教委の方が校区審議会の答申を受けたうえで、どちらの小学校がよりふさわしいか決めたとするんですけども、それを地域の人や校区審議会は加わっていないで、教育委員会のほうで南小、清小どちらにするかというのを決めただけというのも間違いはないですよ。そこなんですよ結局、答申を、審議会の方が答申をした後に、どちらの学校がよりふさわしいかを定める前に、きちんと清和台の人に確認を取った上で、PTAにも打診して、地域のコミュニティの方や自治会の方にこういうお話が持ち上がっているんだけれども、どうしたらいいだろうかとお話しして下されば、こういう説明会の中で反対意見とかこういう問題は出なかったと思うんです。そこをまずお聞きしたいです。あと2番目です。教育長がおっしゃられた、たぶん下をみればたくさん坂がある地域もあり、距離もある学校もあると思います。でもそこ清和台は論点が変わっています。というのは、私たち清和台小学校の保護者たちは、今ある学校がなくなって、そっちに行かなくてはならない学校と、そこにしか小学校がないから、そんな状況でも行かなければならない保護者とは、状況が違います。なのでお話しされても、そこには納得できるようなことは私たちにはないので、もっともっと深いところで理解できるところを提案して頂きたいと思ひます。

あと、単学級のデメリットですね、加配を付けるということなんですけれども、それやったら先ほどスライドで見せて頂いた、平成33年から清和台小も単学級が発生するというのであれば、平成31年32年、2年間だけ清和台南小に単学級が発生することになりますよね。そこに加配を付けて清和台南小でしっかり見守る方が、こんな混乱は少なくなるんじゃないかなと個人的に感じます。あと、こちらは市教委の方に提示、今後して頂きたいんですけども、清小における児童の分布図と清南小における児童の分布図を提示してください。というのは、清小の周りには清小の子どもが住んでいます。清南小には、清南小のまわりには子どもが住んでいる数が少なくて、今ファミリータウンですね、ファミリータウンからその下の流域に住んでいる子たちが多いと思います。この2年間3年間の間に、ファミリータウンから通う子どもたちが200人ほど減るので、清南小の子どもたちは減ると思うんですね。そういうことで、児童分布図です。実際に子どもたちが、その小学校に通うとなった時に、どれだけの人数がその小学校に移動しなければならないのかというのを、予想できる数でいいので、PTAの方に提示して頂けないでしょうか、よろしくお願ひします。

まず、校区審議会についてでございます。さきほど言いましたように、コミュニティの代表でありますとか、保護者の代表でありますとか、学校の校長の代表、そういうふうなところがそれぞれ役割負担をして、集まってきて審議会という形になっています。その諮問内容については様々でございます。先ほど言いました5%枠の見直しもありますし、疑義に応じて、校区を実際に変更したりということも検討して参った経緯もございます。そういうふうな中で今回、統合のことを諮問させて頂いた。それで、ご議論頂いて答申頂いたということですので、何かこう、審議会で、先に諮問があって、審議会招集するという形ではなくてその時に応じた諮問はさせて頂いてございます。したがって当該地区の地域の方おられなかったということも、基本的には、先ほど言いましたように客観的な意見を伺う、もちろんそれは細かい地域のことについてはご負担おかけしていると思いますが、その中でご議論頂くということでございます、そのことで、地域に必ずその人がいなければならないということにはございません。ただですね、ご指摘のように、今後進めるにあたって、ご意見を頂く、参考とされる方を招集すると、その時、諮問の内容によって招集するということは今後考えていく必要があるかなあと思っています。

また、単学級のクラスそのものに、33年度まで統合調整の職員つければいいんじゃないかとの意見でした。考え方が全然異なりまして、やっぱり33年まで教職員をしっかりとつける形にするというのと、統合による影響による単学級が発生している、というのはやはり区別すべきかなと考えております。先ほども言いました、統合を示したことによって単学級が出たと、ということについてはやはり配置すべきではないかと。ただ、先ほども言いました、子どもたちの数によって単学級が発生するということによる、職員の配置というものについてはそれはやっぱり難しい、基本的には難しい状況かなと言うふうに考えています。

校区を指定した中で、現在遠くから通っておられるということを新年度改めて考え、統合してこういう状況になると、もともと広い東谷小学校校区の現実的には、スタートのラインは違うわけです。それに対しては、統合した時に遠いところに関しては、条件ありますけ

れども、精一杯通学の援助・支援については出していきたいと、いうことに繋がる話としてご紹介させていただきます。よろしくお願いいたします。

終了